

フードシステム

地域の特色を活かした連携強化の取組み

国産農産物は農産加工原料としては価格的に割高となるという課題を抱えている。

このためナショナルブランド向け原料としては、品目や産地が限られるのが実情である。こうした中では地域特産物としての振興が重要であり、そのためには地域との連携を強化していく必要がある。今回は岩手県と長野県におけるフードシステム連携強化の取組みを紹介する。

一、地場産業の育成と地域振興

(一)特色ある地域食品の開発

岩手県は四国の面積にも匹敵する広大な県土を有しており、水田農業・野菜・果樹・畜産とバランスのとれた総合産地を形成している。国内農業生産を基本とした食料の安定供給をはかる上で、食料供給基地としての期待は大きい。岩手県では「フードシステム連携強化・循環推進基本計画」を策定し、平成一七年度を目標年度として生産から加工・流通・消費に至る主体間の連携強化に取り組んでいる。特に県産農林水産物を活用した、特色ある地域食品の開発には顕著なものがある。加工品の開発や販路開拓、市場評価調査、施設整備など広範な取組みをおこなっており、地域の特産物や農

家で伝承されている加工食品の掘り起こしにも積極的である。

(二)地域農産物の高付加価値化

例えば地元のぶどうを原料とした「やまのきぶどう」は岩手県ふるさと認証食品第一号にもなり、県内外に販路がひろがった。岩手県の紫波農業改良普及所が仲介して生産者と実需者の契約取引が始まった。

岩手県におけるぶどうの販売は、首都圏への販売力が弱いため、生食用が相対的に少ない。このため加工用需要の拡大をはかり、ジュースやワイン向けぶどうの契約取引に早い段階から取り組んできた。加工用は出荷経費が少なく、栽培の労働力も省力化されるため、規模拡大が容易である。

新たな実需者の開拓にも注力しており、特にワイン用ぶどうの栽培に注目している。地域には大迫町にエーデルワインがあり、ブランドの全国展開も検討されている。

二、りんごを中心とした地域振興

(一)県産農産物の効率的活用

長野県は青森県に次ぐりんごの産地で、特に北信地区は信州においてもりんごの栽培がさかんな地域である。各市町村はりんごの生産振興をはかるとともに、地域振興にも活用している。例えば三水村は全国のりんご生産量の1%を占めるりんご村として、りんごの博物館を建設しPRしている。また、豊野町から長野市長沼地区にかけてはアップルラインとして親しまれ、りんご

畑や直売所がつづいている。

長野県では、昭和四三年から県下の行政地域の組織、生産者団体等が協力して「うまいくだもの推進事業」を展開し、積極的な取組みを進めている。

(二)地域と食品産業の連携

りんごは果汁やジャム、菓子類など加工用途が広い。加工用りんごは組織的な契約取引によりおこなわれており、県や全農、長野、長野県缶詰協会、加工業者、JA、農業試験場、農業改良普及センター等が参加した協議会組織が設置されている。

長野県には、長野興農、日本デルモンテ、カゴメ、ゴールドパック、ナガノトマト、丸善食品工業、森食品工業といった果実加工の主要メーカーが製造所を有している。加工用りんごの調達には、地域生産農家と各加工業者との間に緊密な連携関係が形成されている。

三、フードシステムの連携強化

農林水産業と食品産業は、国民生活に欠くことのできない食料を安定的に供給する重要な役割を担っている。また、地域経済の基盤として、就業機会の確保や所得形成の場としての役割も大きい。

岩手県も長野県も新幹線や高速道路で首都圏とのアクセスが一段と便利になった。豊かな農業県の産物を生かした地域づくりに向けて、関係者の努力が重ねられている。

(鴻巣 正)